

# 琉球弧における船と樹霊信仰

松尾恒一

Ships and Tree Spirit Belief in the Ryukyu Islands Arc

MATSUO Koichi

はじめに—船霊とオナリ神—

① 船大工と船霊・木霊の祭祀と呪法

② 職道具による呪詛

③ 船とオナリ神と樹霊

④ 航海と女神、船体と樹霊—琉球・中国の民俗比較に向けて—

## 【論文要旨】

伝統的な木造船には一般に「船霊」と呼ばれる、船の航海安全や豊漁を祈願する神霊が祀られているが、琉球地域の木造船（刳り舟・サバニ・板付け舟、等）の船霊信仰には、姉妹を守護神として信仰するオナリ神信仰の影響を受けている例が少なくない。このことは、すでに知られているが、本稿では、船の用材となる樹木に対する信仰に注目して、船の守護神としての女性神の信仰とのかかわりを考察する。

船大工によって行われてきた伝統的な造船は、山中における樹木の伐採から始まり進水式をもって完成するが、その間、樹霊やこれとかわる山の神に対する祭祀が重要な作法として行われる。これは奄美大島の事例であるが、八重山地域にまで目を広げれば、船の用材となる樹木を女性と認識しているものと認められる口頭伝承（歌謡）もあり、樹木に宿る樹霊と女性神との結びつきの強さが推測されてくる。

ところで、船大工による伐木の際の、樹霊や山の神への断りの際には、斧のほか、

墨壺・墨差し・曲尺などが重要な役割を果たす。これは、屋普請を行う大工も同様で、建築儀礼の際には山の神や樹霊に対する祭祀が重要視された。船大工や大工は、その職と関わる祭儀において職道具を祭具として用いたのであるが、ときにこれらの道具を用いて呪詛をおこなうなど、シャーマン的な呪力を発揮したりした。

結びとして、こうした琉球地方の航海や船体にかかわる女性神や、造船の際の樹霊に対する信仰を、当地域との長い時代にわたる交流のあった大陸や台湾との習俗と比較した。台湾の龍船競争における媽祖信仰や、貴州省の苗族や台湾少数民族の造船儀礼など、松尾の調査した事例を中心にあげたが、今後の比較民俗に向けての視座を定めるための試論である。

【キーワード】 琉球、船（舟）、女性神、樹霊、中国・台湾の船（舟）と信仰